

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

子供の人権

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 総合

目標・人権教育のねらい

「児童の権利に関する条約」の内容をふまえ、子どもを権利の主体者としてとらえるとともに、保護者、地域住民と連携を深め、「人権が尊重されるまちづくり」を目指す取組を推進する。

実施した内容

小学生・中学生、保護者、地域住民がともに、自らの学習や体験を語り合う「出会い・気づき」の場として、「つげTheフォーラム」を行った。「身近な出来事に立ち止まってみる ～みんなでいっしょに考えよう～」をテーマに、中学生がグループの司会をしながら、グループで話し合った。

工夫した点

フォーラム当日だけでなく、中学生が年間4回、フォーラムに関わる会議に参加し、大人とやり取りしながら内容を考えたり、相談したりすることで、子どもたちが主体的に取り組めるようにした。また、社会の様子や正しい知識について学ぶため、外部からの監修者を迎えた。

他教科との
関連

事業成果

「フォーラムを行うことにより、そのことを意識した取組を教師も子どもも進めることができた。また議論することの楽しさを感じられた生徒もあり、「来年度は自分たちがフォーラムをつくっていく」と前向きな姿も見られた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

女性

対象学年・
取り扱った教科等

3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

男女が対等の立場で社会のあらゆる分野に共に参画し、責任を分かち合う社会をめざす子どもの育成。

実施した内容

日本国憲法「平等権」や「日本の選挙制度」の学習の中で、「日本はなぜ、女性国会議員が少ないのか」という問いを皮切りに、日本の女性が社会進出しづらい背景について考えた。

工夫した点

三重県教育委員会人権学習指導資料『みらいをひらく』の女性の人権「誰もがはたらきやすくするために」の項目で取り上げられた題材を読み、問題点について考えた。さらに、【学習補助資料】のグラフを活用し、日本社会における女性の見方についても考えた。また、『図解でわかる14歳から考える民主主義』に掲載されている「世界の民主主義ランキング」や「ジェンダーギャップ指数」の資料をもとに、「男は仕事、女は家庭」の意識だけでなく、クォーター制の導入など政治体制の側面からも考えられるようにした。

他教科との
関連

事業成果

社会科の学習においても、『みらいをひらく』は活用しやすく、他の人権課題に関わる学習においても活用できると感じた。女性は社会進出しづらい背景には、今の社会にも課題があることを意識することができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

高齢者

対象学年・
取り扱った教科等2年 国語科
3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

すべての世代の人々が人とつながりながら、生きがいをもって安心してくらす地域社会を築こうとする子どもの育成。

実施した内容

国語「情報を関係づける」で、図表と解説文の2つを関連づけて考えをまとめた。図表資料A「共生社会に関するデータ」、解説文資料B「自立とは『依存先を増やすこと』」この2つの資料を関連づけて、共生社会の実現に向け、大切だと思うことをまとめた。

社会科の教科書（公民的分野）「少子高齢化の社会で生きる私たち」で、少子高齢社会がもたらす日本社会への影響について考えた。経済の学習では、高齢者が悪徳商法のターゲットにされやすい事象を取り上げ、共生社会を目指すためにはどうあるべきかを考えた。

工夫した点

資料Aのグラフから、年々近所づきあいが少なくなっていることがわかった。また別のグラフでは、60年ほどの間に、年齢の高い人の割合がどんどん増えていることがわかった。このことを資料Bの解説文と合わせて考えるようにした。筆者は「自立」というのは、依存先を増やすことだと述べており、人とのかかわりを増やしていくことが大切で、それが一人ひとりの自立につながると考えるようにまとめた。

社会科の学習では「若者が多くの高齢者を支えなければならないという側面のみで終始しないよう、具体的な事例を取り上げながら考えるようにした。

他教科との
関連

総合的な学習の時間（1年生）

事業成果

1年生で学習した内容を再確認できた。

実際の事例を取り上げたことで、自分の祖父母が、と見え、他人ごとではないことに気づくことができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等1年 総合、2年 国語
3年 社会科（公民分野）

目標・人権教育のねらい

障がい社会が作り出しているという社会モデルの考え方に立って、障害者の人権に係わる問題を解決していこうとする子どもの育成。

実施した内容

国語「情報に関係づける」で、図表と解説文の2つを関連づけて考えをまとめた。図表資料A「共生社会に関するデータ」、解説文資料B「自立とは『依存先を増やすこと』」この2つの資料を関連づけて、共生社会の実現に向け、大切だと思うことをまとめた。社会科教科書（公民的分野）「等しく生きる権利」「人間らしい生活を営む権利」で「障害者差別解消法」も取り上げ、共生社会をめざすための社会制度について考えた。

工夫した点

資料Aの3つのグラフ（①近所づきあいの程度の変遷、②人口ピラミッドの変化、③鉄道駅等におけるバリアフリーの推移）を関連づけて、考えたことをまとめた。資料B 文章から読み取ったことをまとめた。

1年時に「障がい者問題」について学習しているので、「障がい者の雇用」に着目し、日本国憲法の社会権で保障されている権利の内容をはじめに学習した。そして、障がい者雇用に関わる動画を視聴し、障がいのある人にとっての働きやすい環境について考えた。

他教科との
関連

総合的な学習の時間（1年）

事業成果

1年で学習した内容を再確認できた。
これまでの学習や出会いを振り返りながら、合理的配慮について考えることができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等

3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

部落問題の解決を自分の課題として受けとめ、不当な差別のない社会の実現に展望を見出し、行動しようとする子どもの育成。
子どもの進路に対する意欲や学力を高め、進路を切り拓く力をつける。

実施した内容

社会科教科書（公民的分野）「差別のない社会へ」で、2022年発行『人権問題に関する伊賀市民意識調査 ダイジェスト版』のグラフから読み取れることを考えた。また、「同和対策審議会答申」や「部落差別解消推進法」、2022年5月に公施行された「差別を解消し、人権が尊重される三重をつくる条例」などの法制度の学習を行った。

工夫した点

市民意識調査の結果の紹介に終始するのではなく、どのような変化、課題が残っているかを生徒の視点で考えさせた。自分たちで課題を見出すことで、差別をなくす行動につなげていきやすくなると考えるようにした。また、法律や条例の視点から部落差別の実態をとらえられるように、書籍等を参考にわかりやすい内容を提示した。

他教科との
関連

事業成果

「市民の多くは、『差別はいけない』とわかっているが、差別はまだ残っている」という現状を生徒がとらえ直すことができた。特に、部落差別解消推進法における「相談体制」の部分で、差別をなくす方法として、「相談」の視点があることに気づくことができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

アイヌの人々

対象学年・
取り扱った教科等

2年 社会科（地理的分野）

目標・人権教
育のねらい

アイヌの歴史・文化を尊重し、アイヌの人々に対する偏見や差別を許さない子どもの育成。

実施した内容

社会科教科書（地理的分野）北海道地方の学習で、「地域の多様な文化を大切にする取り組み」のコラムにおいて、アイヌ語に由来する地名やカムイの伝承について調べ学習を行い、「ウポポイ」の動画を視聴した。

工夫した点

アイヌ語にまつわる北海道の地名をクイズ形式にし、地図帳を使ってグループで調べ学習を行った。出題の際、現在の地名の発音と似ているものからパワーポイントを使い、提示し、その法則についても考える場をつくった。歴史では、屯田兵や開拓使について、年表を使い紹介した。

他教科との
関連

事業成果

アイヌ民族は、自然を大切にしている民族であることを、アイヌ語や文化から気づくことができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等3年 社会科（公民的分野）
2年 音楽科

目標・人権教育のねらい

日本と外国との歴史経緯や、文化・価値観の多様性についての理解を深め、多文化共生社会を共に築こうとする子どもの育成。

実施した内容

社会科教科書（公民的分野）「等しく生きる権利」の学習の中で、東京オリンピック・パラリンピックの話題から、外国人にもわかりやすい地図記号・マークについて紹介した。また、「参政権」の学習で、日本の選挙において外国人に選挙権が認められていない社会について考え、「ヘイトスピーチ解消法」について考

ナポリ民謡と日本歌曲を歌唱し、互いの曲想と音楽の構造、歌詞の内容や曲の背景との係わりについて考えた。

工夫した点

東京オリンピック・パラリンピックの話題から、地図記号やマークのクイズを出題し生徒の興味関心を引き出すようにした。また、日本ではなぜ外国人に選挙権が認められていないのか、ヘイトスピーチの実態など社会問題にふれ、共生社会を目指すために必要なことは何かを考えるようにした。

イタリア語と日本語それぞれの言語の持つ美しさを意識し、味わいながら歌唱するようにした。

他教科との
関連

事業成果

地図記号やマークの話題から、「外国の人だけでなく、文字の読み書きができない人にとってもわかりやすい」と他の人権課題ともつなげて考えることができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

HIV感染者等

対象学年・
取り扱った教科等

3年 保健体育（保健分野）

目標・人権教育のねらい

HIV感染者・エイズ患者に対して偏見を持ったり排除をしたりせず、共に社会で暮らそうとする子どもの育成。

実施した内容

教科書（保健分野）「性感染症とその予防／エイズ」の学習を行った。性感染症はどんな病気であり、どうすれば予防できるのかを考えた。また、性感染症の予防について、感染者や関係者の立場に立って考えることについても学習した。

工夫した点

他の性感染症も含め、自分一人の問題ではないことを考えさせた。「うつす可能性」「うつされる可能性」がある病気であることを確認し、正しい予防方法について考えさせた。また、感染経路などを正しく知ること、感染者に対しての偏見や思い込みが起らないようにすること、正しい知識の必要性についても考えるようにした。そして、レッドリボンの取組や世界的な啓発活動についても紹介した。

他教科との
関連

事業成果

性感染症について正しい知識、予防方法を知るとともに、HIV感染者が差別されることに対しての不合理さに気づくことができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

ハンセン病患者等

対象学年・
取り扱った教科等

3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

ハンセン病元患者に対する正しい知識を持つとともに、ハンセン病に係わる歴史的事実に学び、同じ過ちを繰り返さない社会をつくろうとする子どもの育成。

実施した内容

社会科教科書（公民的分野）「人権の保障を確実にするために」の「請求権」の学習で、ハンセン病（元）患者が国に起こした裁判を題材に、差別の不合理・不条理について学習した。

工夫した点

人権総合学習で「ハンセン病」について学習したことと合わせて、実際の裁判の実例を提示し、論点や差別の不合理・不条理について考えさせるようにした。これらの内容は、日本国憲法で認められている権利であることも確認した。

他教科との
関連

事業成果

裁判の実例を示すことで、改めてハンセン病（元）患者に対する人権侵害への怒りを持ち、自分たちがどう行動していくかを考えることができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

インターネットによる人権侵害

対象学年・
取り扱った教科等3年 技術科
2年 保健体育

目標・人権教育のねらい

インターネットの特性を理解し、インターネットを通じて発信される情報内容を批判的に読み解き安全に使うことができる子どもの育成。

実施した内容

教科書及びプリントの事例を活用し、インターネットの特性（①不特定多数から見られる、②いつでもどこでもアクセスできる、③情報の検索性、④情報の信ぴょう性）について考え、安全で自他の人権を守る使い方について考えた。
教科書（保健分野）「犯罪被害の防止」の学習で、犯罪被害を防ぐためにはどうすればよいか、具体的な場面で考えた。

工夫した点

中学生の実態に近いプリントを活用することで、日常生活でよくある場面を想起させ、その中から、インターネットによる人権侵害をしない、させないことを改めておさえるとともに、ホームページやSNSを見たときに、これはおかしいなと気づいたり、この文章や写真はアップロードすべきかどうか判断する力を養うことを視点として学習を展開した。また、保健分野では、教科書の他に文部科学省の「情報化社会の新たな問題を考えるための教材～安全なインターネットの使い方を考える～」を活用した。

他教科との
関連

社会科（公民）

事業成果

他の教科と結びつけたり、実生活に近い題材を扱って考えさせたことで、知識がより今後の生活に活かしやすい形で理解させることができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

北朝鮮当局による拉致問題等

対象学年・
取り扱った教科等

3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育
のねらい

北朝鮮当局による拉致問題等について子どもたちが関心と認識を深める。

実施した内容

社会科教科書（公民的分野）「現代の戦争と平和」の学習で、拉致問題について各班で調べ発表を行った。アニメ「めぐみ」を視聴し、横田めぐみさんの母、早紀江さんの手記を読み、印象に残ったことを出し合った。

工夫した点

「めぐみ」を視聴する前に、社会科の学習として拉致問題について生徒たちが知らなければならぬと考え、調べ学習をすることにした。調べる手法としてジグソー法を用いた学習を展開した。「拉致問題とは」、「日本と北朝鮮との話し合いの経緯」、「国際社会における取組」、「北朝鮮側の主張の問題点」の4つの視点に着目し、調べ学習を進めていった。また、めぐみさんのご家族の気持ち、当時から今の気持ちの変化についてワークシートを活用して考えさせた。自分たちの日常と重ねて考え、めぐみさんが奪われたものは何かを考えさせた。

他教科との
関連

事業成果

拉致問題について理解するとともに、被害者や家族の気持ちを考えることができた。また、国の対策をはじめとした、被害者の周りの協力体制が大切であると感じさせることができた。拉致問題について調べている中で、「ニュースで拉致問題のことやってたよ。」と話す生徒がおり、関心を高めることの良さと大切さを感じた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等1年 保健体育（保健分野）
3年 社会科（公民的分野）

目標・人権教育のねらい

性のあり方は多様であることを認識し、性的指向や性自認に関わる偏見にとらわれない社会をつくろうとする子どもの育成。

実施した内容

教科書（保健分野）の「性とどう向き合うか」の学習をした。思春期における性意識の変化と、性に関する適切な態度や行動の選択について考えた。
教科書（公民的分野）「等しく生きる権利」で性的マイノリティの人権について考えた。日本と世界を比較し、「同性婚」について考えた。

工夫した点

思春期の性意識の変化について、個人差があり、誰一人同じ性意識はないということを考えさせた。相手に気持ちを押しつけることやDVの危険性、相手も自分と同じ関心を持っているという思い込みなどを意識するようになった。そのうえで性的関心に対する行動の仕方や、性に関しての周囲への発言について、相手も自分も傷つけないということをテーマにした。
昨年度の嶋田さんと加納さんからの話、伊賀市パートナーシップ宣誓制度にふれながら、日本社会の問題点を洗い出すようにした。

他教科との
関連

事業成果

性的マイノリティに対する理解にどのようなちがいが見られるか、日本と世界を比較することで、「同性婚」が当たり前になるような社会をつくっていく必要性を感じることができた。

令和 4 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

三重県

学校名

伊賀市立柘植中学校

人権課題

その他（貧困等に係る人権課題）

対象学年・
取り扱った教科等

3年 社会科（公民分野）

目標・人権教育のねらい

子どもの将来が生まれ育った環境に左右されたり、貧困の連鎖によって閉ざされたりすることがないように、経済的困難に起因して発生する様々な課題に対する取組を推進する。

実施した内容

教科書（公民的分野）「発展途上国の現状と多様化する世界」の学習で南北問題、南南問題について学習した。また、日本は先進国と言われるが、国内でも経済格差があり、子どもの貧困についても触れた。

工夫した点

JICAが提供する学習教材「貿易ゲーム」を通して、先進国や発展途上国が置かれている現状を疑似体験し、問題点を挙げる学習を通して、南北問題や南南問題についてをおさえていった。また、日本の貧困については、『みらいをひらく』の資料を使い、現状を把握した。

他教科との
関連

事業成果

「貿易ゲーム」を通して先進国の「特権」に関して気づく生徒の一言があった。また、日本が貧困問題を抱えているとは知らない生徒が多く、そのための社会保障制度のあり方を考えている生徒も見られた。